

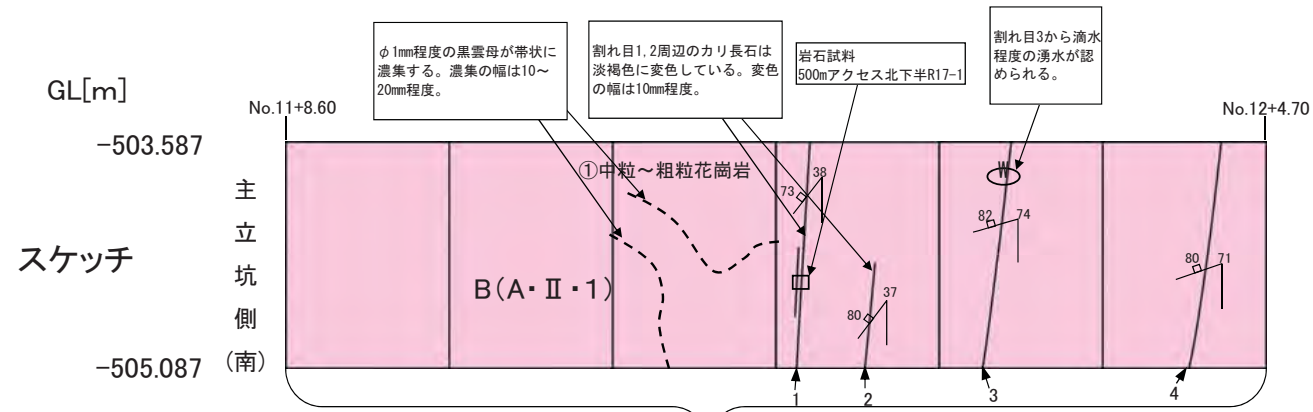
A工区地質記載シート

A5-請負-計測工(地質)-130806

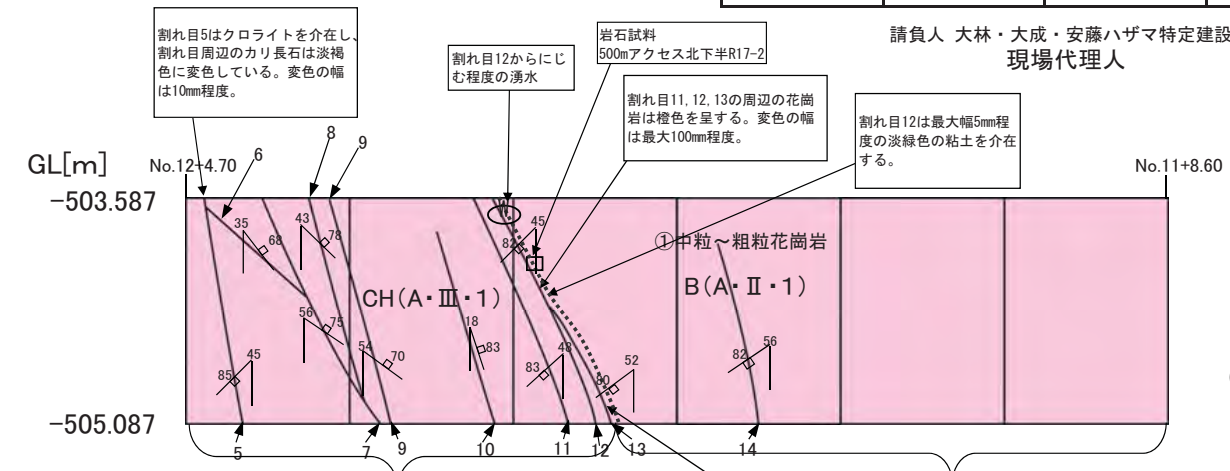
シート番号	500mアクセス北 下半17	日時	2013/8/6 8:30~10:00	位置・深度	500mアクセス北下半17 G. L. -503.587 m~G. L. -505.087 m	観察・撮影者	
-------	-------------------	----	------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

凡例 花崗岩 割れ目 岩級区分境界 70 割れ目の走向傾斜 湧水 黒雲母の濃集

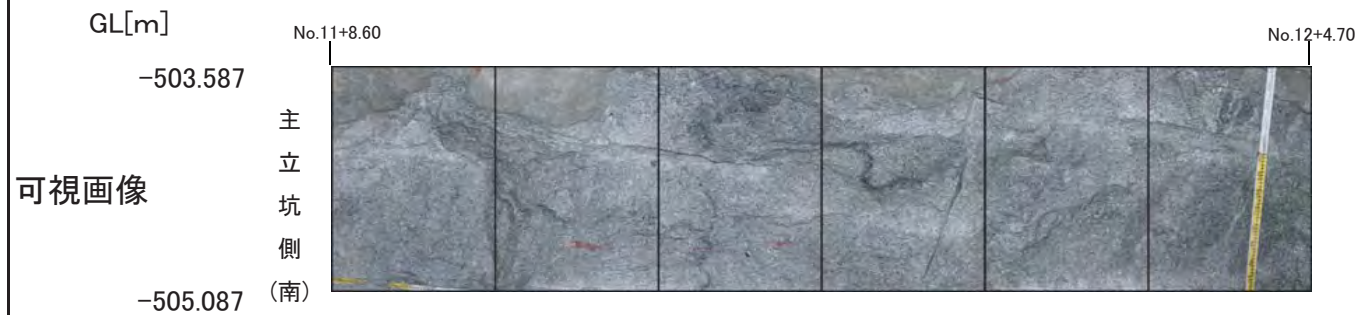


φ1mm程度の黒雲母が帯状に濃集する。濃集の幅は10~20mm程度。
 割れ目1, 2周辺のカリ長石は淡褐色に変色している。変色の幅は10mm程度。
 岩石試料 500mアクセス北下半R17-1
 割れ目3から滴水程度の湧水が認められる。



割れ目5はクロライトを介し、割れ目周辺のカリ長石は淡褐色に変色している。変色の幅は10mm程度。
 割れ目12からにじむ程度の湧水
 岩石試料 500mアクセス北下半R17-2
 割れ目11, 12, 13の周辺の花崗岩は橙色を呈する。変色の幅は最大100mm程度。
 割れ目12は最大幅5mm程度の淡緑色の粘土を介在する。
 割れ目13は最大幅3mm程度の淡緑色の粘土を介在する。
 NW走向高角度南傾斜の割れ目と、NE走向高角度東~南傾斜の割れ目が、20~30cm程度の間隔で認められる。NE走向の割れ目はNW走向の割れ目で止まる。割れ目にはクロライトや白色と淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、割れ目周辺では有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる。カリ長石は橙色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さである。

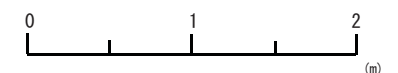
NW走向高角度西傾斜の割れ目が60cm以上の間隔で認められる。割れ目にはクロライトを介在する。花崗岩に変質は認められず、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。



西側壁



東側壁



岩種	花崗岩	電研式岩級	西側壁 B 東側壁 B/CH	特記事項 当箇所は500mアクセス北坑道の下半であり、掘進方向はN9°W方向である。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~7mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々にφ10mm程度のカリ長石が認められる。また、φ1mm程度の黒雲母が帯状やスポット状に濃集しているのが認められる。西側壁の花崗岩は変質は認められず、有色鉱物は残存し、花崗岩は淡桃色を呈する。東側壁の花崗岩も概ね変質は認められないが、割れ目11から割れ目13付近では変質の程度は弱く、有色鉱物の一部がクロライトに置き換わり、カリ長石は橙色を呈している。西側壁の割れ目は、WNW走向高角度南傾斜が主体で、他に、NW走向高角度西傾斜が認められる。東側壁の割れ目は、NW走向高角度南~西傾斜とNE走向高角度東~南傾斜が主体で認められる。
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色、淡褐色)	RMR値	西側壁 93 東側壁 64	
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北下半R17-1 (花崗岩), 500mアクセス北下半R17-2 (花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			

湧水は西側壁の割れ目3から滴水程度と、東側壁の割れ目12からにじむ程度が認められた。岩級区分は西側壁および東側壁の割れ目13付近から南側は、割れ目間隔が60cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。東側壁の割れ目13付近から北側は、割れ目間隔が20~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(A・III・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

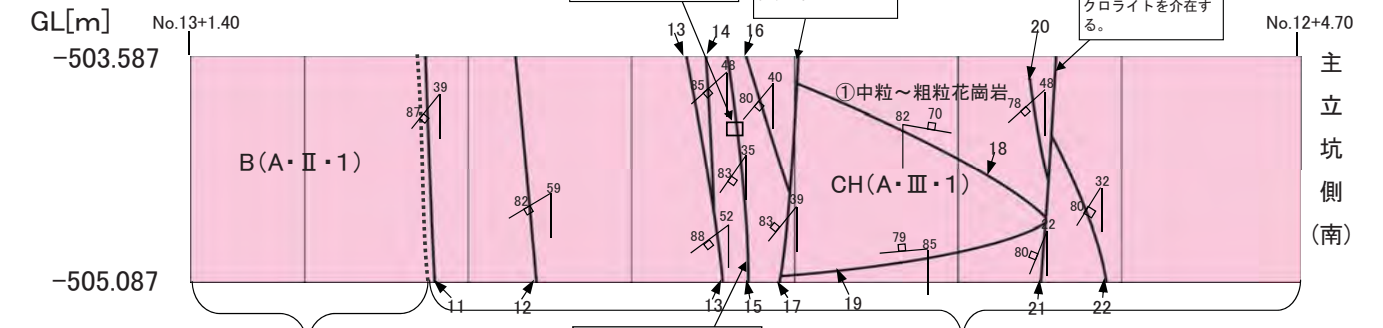
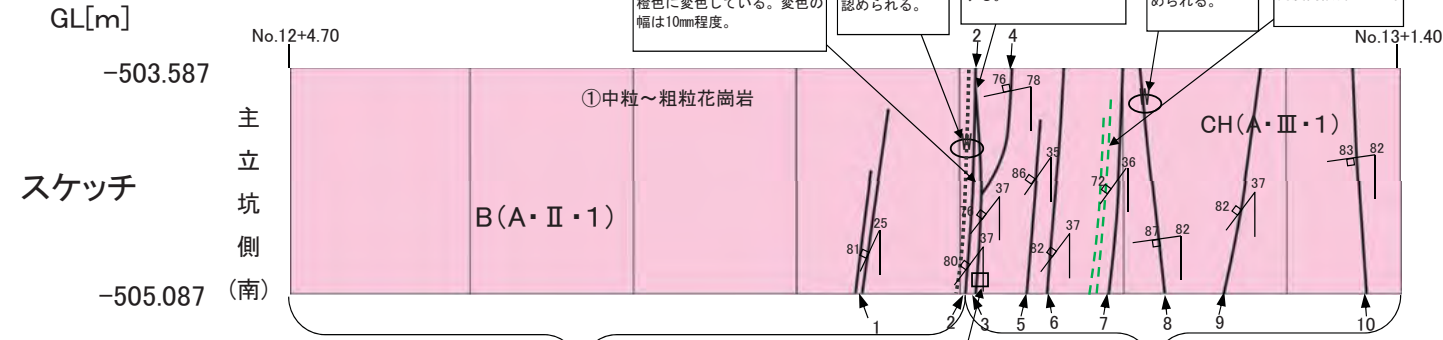
A5-請負-計測工(地質)-130807

シート番号	500mアクセス北 下半18	日時	2013/8/7 11:30~13:00	位置・深度	500mアクセス北下半18 G. L. -503.587 m~G. L. -505.087 m	観察・撮影者	
-------	-------------------	----	-------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

凡例	花崗岩	割れ目	岩級区分境界	70° 割れ目の走向傾斜	湧水	黒雲母の濃集	クロライト脈
----	-----	-----	--------	--------------	----	--------	--------

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人



WNW走向高角度南傾斜の割れ目が60~100cm程度の間隔で認められる。割れ目にはクロライトを介在する。変質は認められず、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

岩石試料
500mアクセス北下半R18-1

WNW走向高角度南傾斜の割れ目と、NNW走向高角度東傾斜と西傾斜の割れ目が、20~30cm程度の間隔で認められる。割れ目にはクロライトやカルサイト、および淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、割れ目2,3周辺では有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる。カリ長石は橙色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さである。

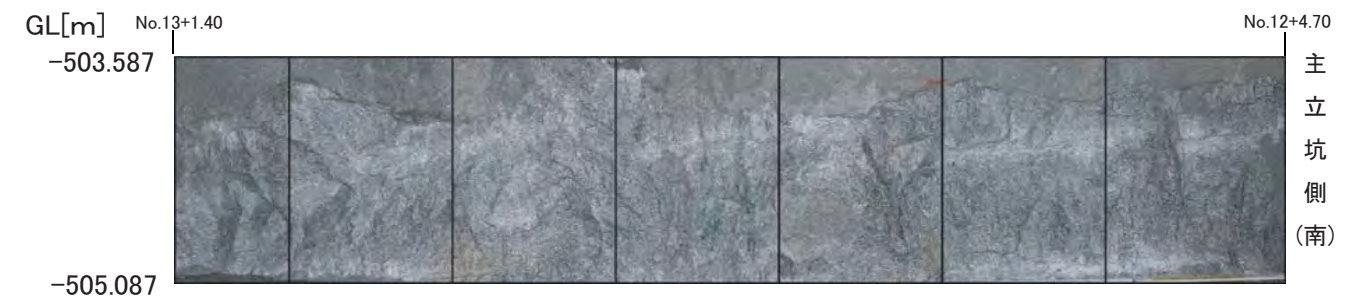
WNW走向高角度南傾斜の割れ目が60cm以上の間隔で認められる。割れ目に介在物は認められない。花崗岩に変質は認められず、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

割れ目15は淡緑色の粘土を介在し、割れ目周辺のカリ長石は淡褐色に変色している。変色の幅は50~70mm程度。

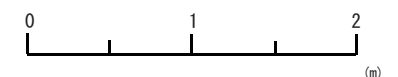
WNW~NW走向高角度南~西傾斜と北傾斜の割れ目と、NNW走向高角度東傾斜の割れ目が、20~30cm程度の間隔で認められる。NE走向の割れ目はWNW~NW走向の割れ目で止まる。割れ目にはクロライトやカルサイト、および淡緑色の粘土を介在する。花崗岩の変質の程度は弱く、割れ目周辺では有色鉱物の一部がクロライトに置き換わる程度であるほか、割れ目周辺ではカリ長石が淡褐色に変色している。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さである。



西側壁



東側壁



岩種	花崗岩	電研式岩級	西側壁 B/CH 東側壁 B/CH	特記事項
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色、橙色、淡褐色)	RMR値	西側壁 61 東側壁 67	
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北下半R18-1 (花崗岩), 500mアクセス北下半R18-2 (花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	滴水程度			

当箇所は500mアクセス北坑道の下半であり、掘進方向はN9°W方向である。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。西側壁の花崗岩は、割れ目2付近から南側では変質は認められない。割れ目2付近から北側では、変質の程度は弱く、割れ目2,3周辺の有色鉱物の一部がクロライトに置き換わるほか、カリ長石が橙色に変色する程度である。東側壁の花崗岩は、割れ目11付近から北側では変質は認められない。割れ目11付近から南側では変質の程度は弱く、割れ目周辺では有色鉱物の一部がクロライトに置き換わり、カリ長石は淡褐色に変色している。西側壁の割れ目の走向傾斜は、WNW走向高角度南傾斜が主体で、他に、NNW走向高角度東傾斜と西傾斜が認められる。東側壁の割れ目の走向傾斜は、WNW~NW走向高角度南~西傾斜および北傾斜、NNW走向高角度東傾斜が認められ、WNW~NW走向の割れ目が優勢である。

割れ目の介在物にはクロライト、カルサイト、淡緑色の粘土が認められる。湧水は西側壁の割れ目2からにじむ程度と、割れ目8から滴水程度が認められた。東側壁の割れ目からは湧水が認められなかった。岩級区分は西側壁の割れ目2付近から南側と、東側壁の割れ目11付近から北側は、割れ目間隔が60cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。西側壁の割れ目2付近から北側と、東側壁の割れ目11付近から南側は、割れ目間隔が20~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(A・III・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

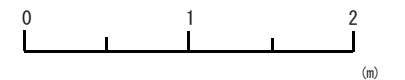
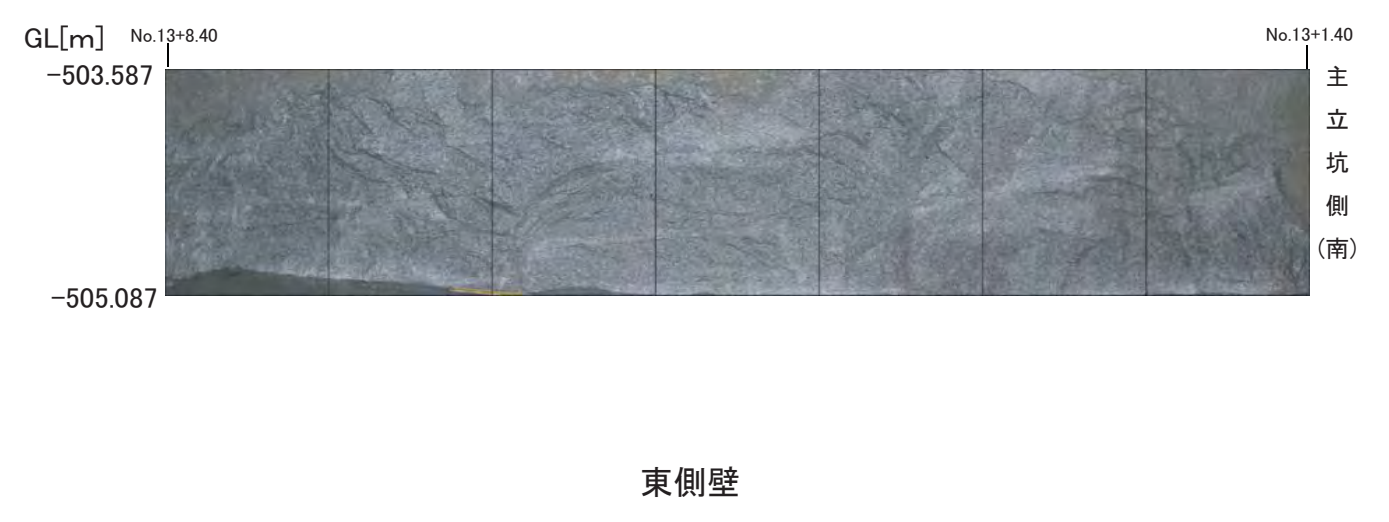
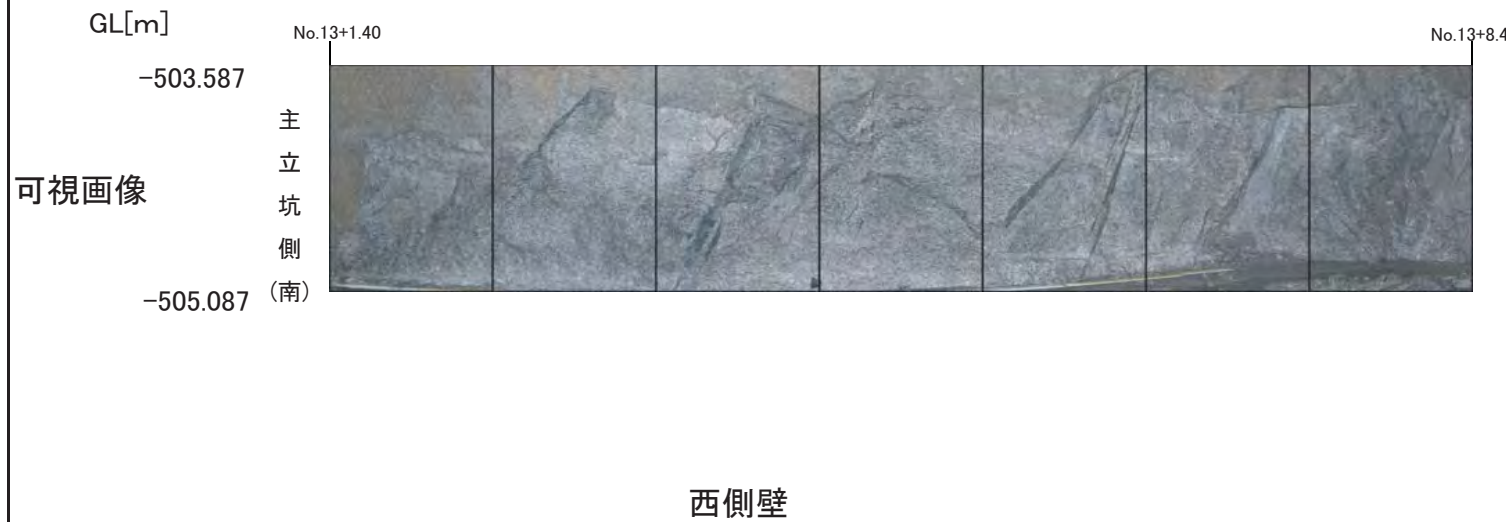
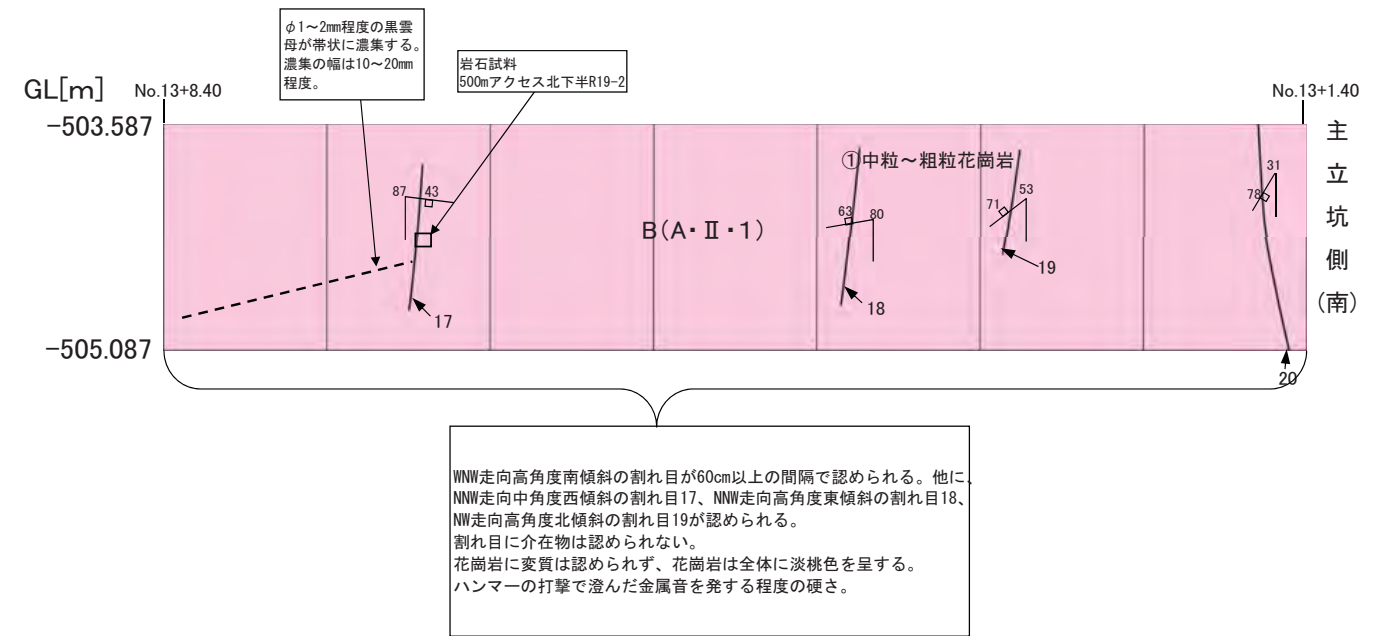
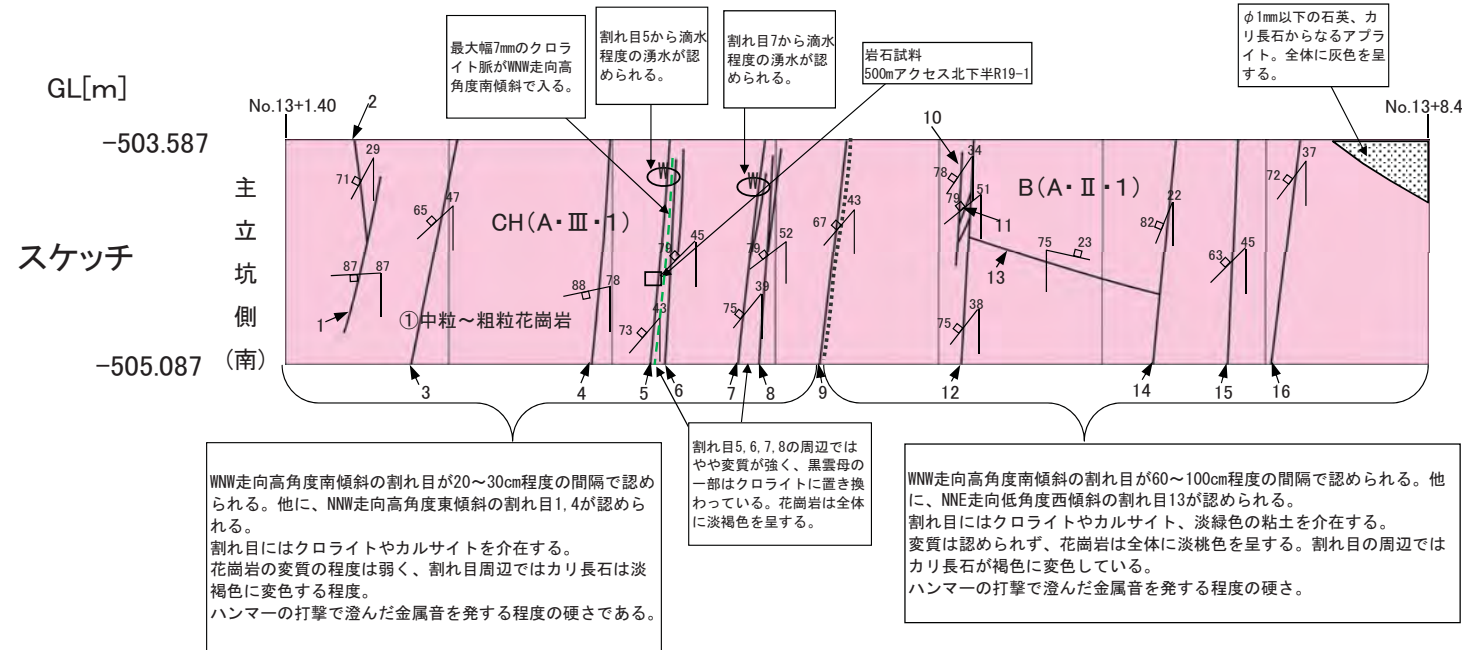
A5-請負-計測工(地質)-130912

シート番号	500mアクセス北 下半19	日時	2013/9/12 10:30~12:00	位置・深度	500mアクセス北下半19 G. L. -503.587 m~G. L. -505.087 m	観察・撮影者	
-------	-------------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

凡例	花崗岩	割れ目	岩級区分境界	70	割れ目の走向傾斜	湧水	黒雲母の濃集	クロライト脈	アプライト脈
----	-----	-----	--------	----	----------	----	--------	--------	--------

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	花崗岩	電研式岩級	西側壁 B/CH 東側壁 B
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡褐色、灰色)	RMR値	西側壁 58 東側壁 88
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北下半R19-1 (花崗岩), 500mアクセス北下半R19-2 (花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所は500mアクセス北坑道の下半であり、掘進方向はN9°W方向である。
 岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。
 西側壁、東側壁ともに花崗岩に変質は殆ど認められず、黒雲母などの有色鉱物は残存し、花崗岩は淡桃色を呈する。割れ目の周辺においては程度の弱い変質が認められ、カリ長石が淡褐色に変色するほか、割れ目5, 6, 7, 8の周辺では黒雲母の一部がクロライトに置き換わっている。
 西側壁の割れ目の走向傾斜は、WNW走向高角度南傾斜が主体で、他に、NNW走向高角度東傾斜やNNE走向低角度西傾斜。
 東側壁の割れ目の走向傾斜には卓越した方向性はなく、WNW走向高角度南傾斜、NNW走向中角度西傾斜、NNW走向高角度東傾斜、NW走向高角度北傾斜の割れ目19が認められる。WNW走向の割れ目以外の割れ目は長さが1m程度のもので連続性はあまりよくない。

割れ目の介在物にはクロライト、カルサイト、淡緑色の粘土が認められる。
 湧水は西側壁の割れ目5と、割れ目7から滴水程度が認められた。東側壁の割れ目からは湧水が認められなかった。
 岩級区分は西側壁の割れ目9付近から北側と、東側壁は、割れ目間隔が60cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・Ⅱ・1)級と評価した。西側壁の割れ目9付近から南側は、割れ目間隔が20~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(A・Ⅲ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

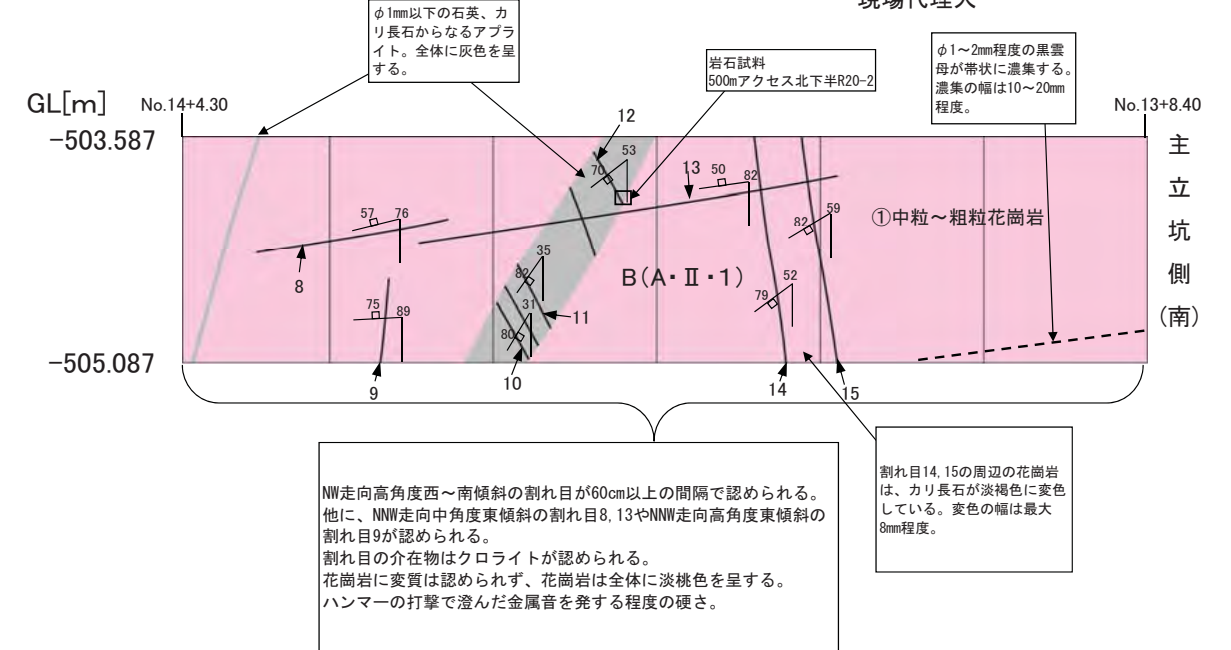
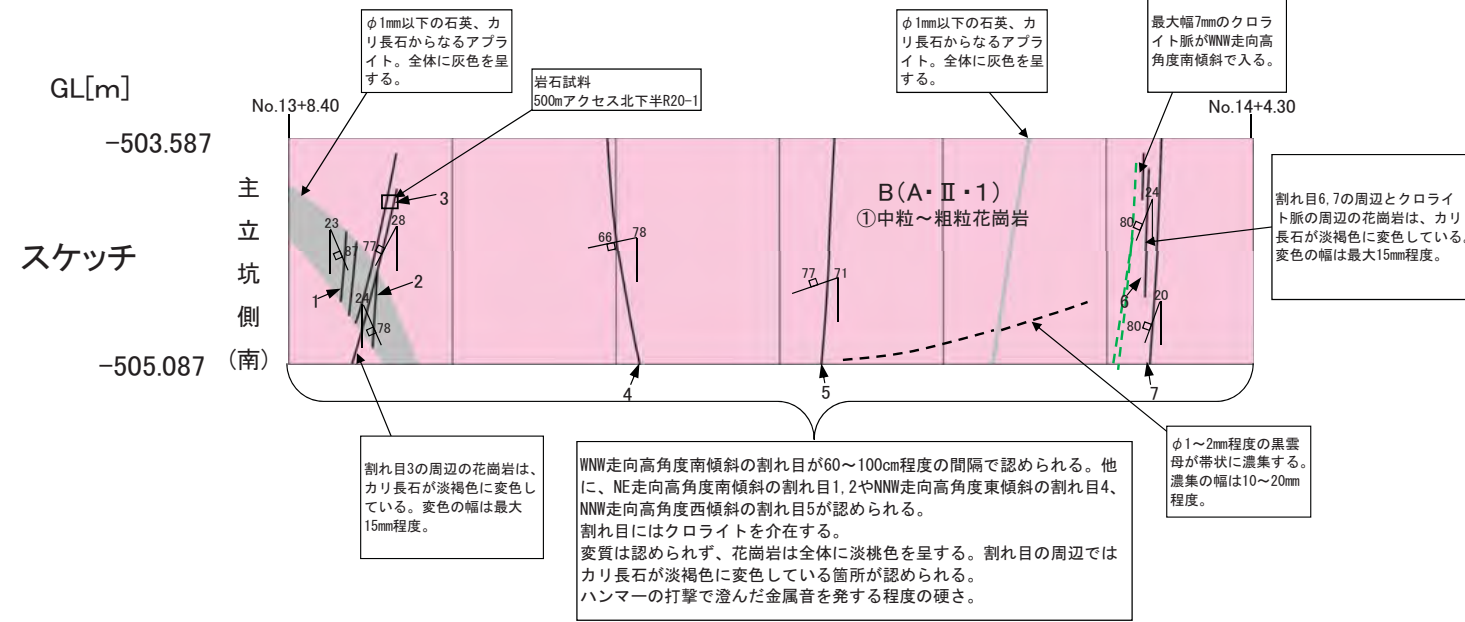
A5-請負-計測工(地質)-130913

シート番号	500mアクセス北 下半20	日時	2013/9/13 15:00~16:30	位置・深度	500mアクセス北下半20 G. L. -503.587 m~G. L. -505.087 m	観察・撮影者	
-------	-------------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

凡例	花崗岩	割れ目	岩級区分境界	70°	割れ目の走向傾斜	湧水	黒雲母の濃集	クロライト脈	アブライト脈
----	-----	-----	--------	-----	----------	----	--------	--------	--------

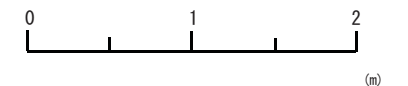
請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人



西側壁



東側壁



岩種	花崗岩	電研式岩級	西側壁 B 東側壁 B	特記事項 当箇所は500mアクセス北坑道の下半であり、掘進方向はN9°W方向である。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。西側壁、東側壁ともに花崗岩に変質は殆ど認められず、黒雲母などの有色鉱物は残存し、花崗岩は淡桃色を呈する。割れ目の周辺においては程度の弱い変質が認められ、カリ長石が淡褐色に変色する。西側壁の割れ目の走向傾斜は、WNW走向高角度南傾斜が主体で、他に、NE走向高角度南傾斜やNNW走向高角度東傾斜、NNW走向高角度西傾斜が認められる。東側壁の割れ目の走向傾斜は、NW走向高角度西~南傾斜が主体で、他に、NNW走向中角度東傾斜やNNW走向高角度東傾斜が認められる。
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡褐色、灰色)	RMR値	西側壁 88 東側壁 88	
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北下半R20-1 (花崗岩), 500mアクセス北下半R20-2 (花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	無し			

A工区地質記載シート

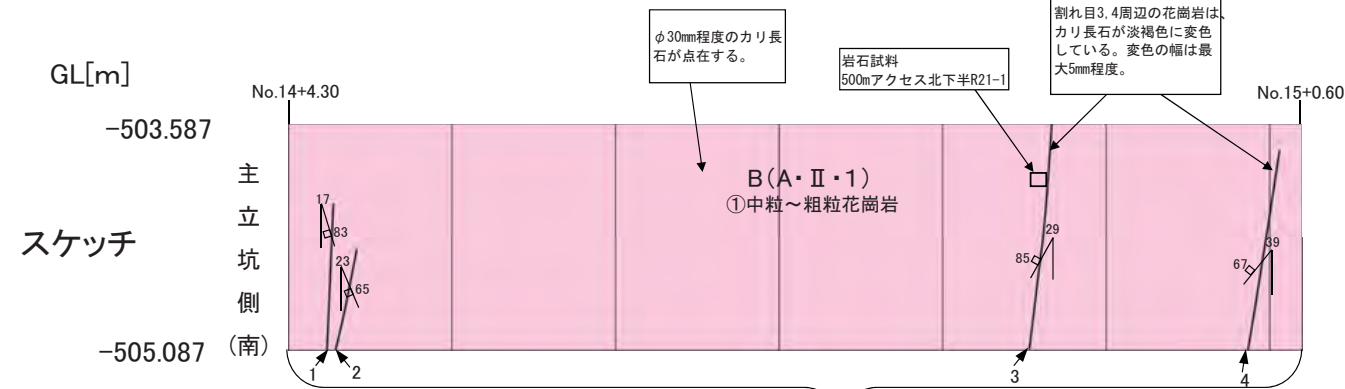
A5-請負-計測工(地質)-130927

シート番号	500mアクセス北 下半21	日時	2013/9/27 11:00~12:30	位置・深度	500mアクセス北下半21 G. L. -503.587 m~G. L. -505.087 m	観察・撮影者	
-------	-------------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

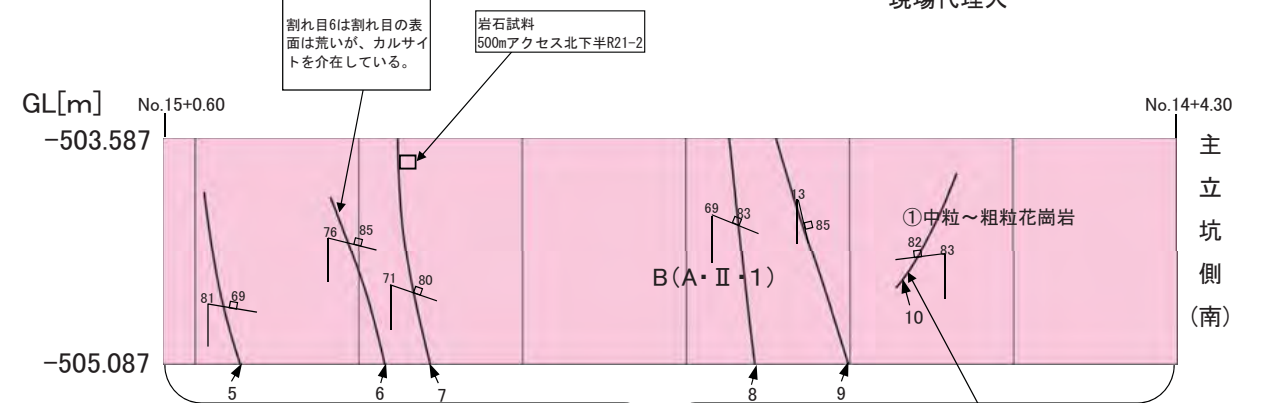
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

凡例 花崗岩 割れ目 岩級区分境界 70 割れ目の走向傾斜 湧水

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人

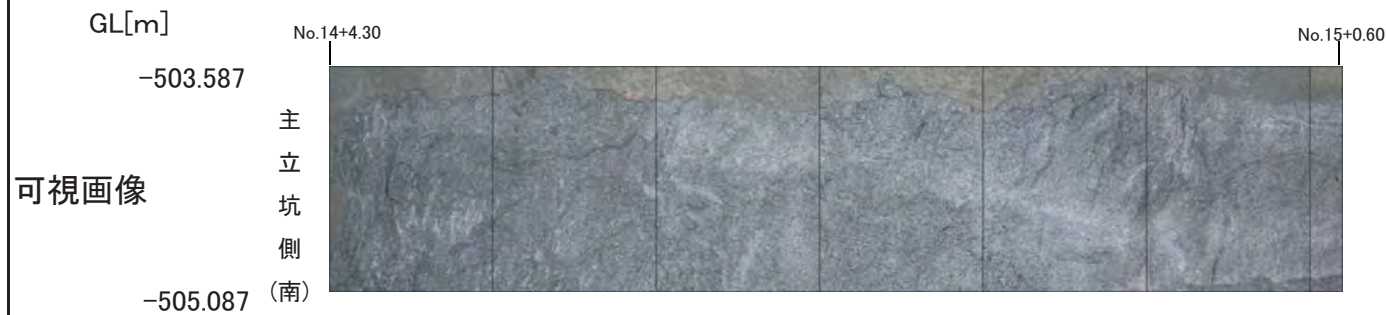


WNW走向高角度南傾斜の割れ目が60cm以上の間隔で認められる。他に、NE走向高角度南傾斜の割れ目1,2が認められる。割れ目3,4はクロライトを介在する。変質は認められず、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目3,4の周辺では程度の弱い変質により、カリ長石が淡褐色に変色している箇所が認められる。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。



NNE走向高角度東傾斜の割れ目が60cm以上の間隔で認められる。他に、ENE走向高角度南傾斜の割れ目9やNNW走向高角度東傾斜の割れ目10が認められる。割れ目の介在物はカルサイト、パイライトが認められる。花崗岩に変質は認められず、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

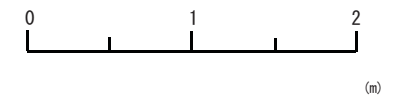
割れ目10は酸化により茶褐色に変色したパイライトを少量介在している。



西側壁



東側壁



岩種	花崗岩	電研式岩級	西側壁 B 東側壁 B	特記事項 当箇所は500mアクセス北坑道の下半であり、掘進方向はN9°W方向である。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々に最大φ30mmのカリ長石が認められる。西側壁、東側壁ともに花崗岩に変質は殆ど認められず、黒雲母などの有色鉱物は残存し、花崗岩は淡桃色を呈する。割れ目3,4の周辺においては程度の弱い変質が認められ、カリ長石が淡褐色に変色する。西側壁の割れ目の走向傾斜は、WNW走向高角度南傾斜が主体で、他に、NE走向高角度南傾斜が認められる。東側壁の割れ目の走向傾斜は、NNE走向高角度東傾斜が主体で、他に、ENE走向高角度南傾斜やNNW走向高角度東傾斜が認められる。割れ目の介在物にはクロライト、カルサイト、パイライトが認められる。湧水は認められなかった。岩級区分は西側壁、東側壁ともに、割れ目間隔が60cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。
岩相	①中粒~粗粒花崗岩(淡桃色、淡褐色)	RMR値	西側壁 95 東側壁 93	
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北下半R21-1(花崗岩)、500mアクセス北下半R21-2(花崗岩)	
変質	1~2	採水試料番号	-	
湧水	無し			

A工区地質記載シート

A5-請負-計測工(地質)-130930

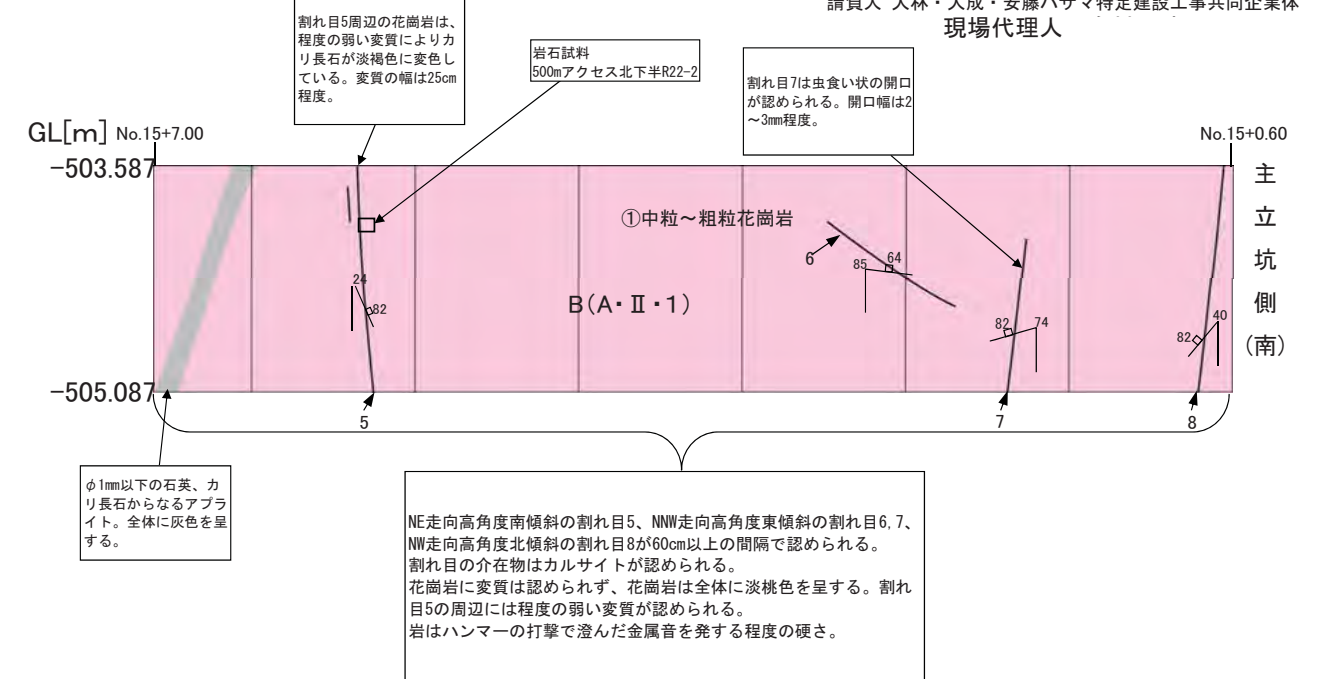
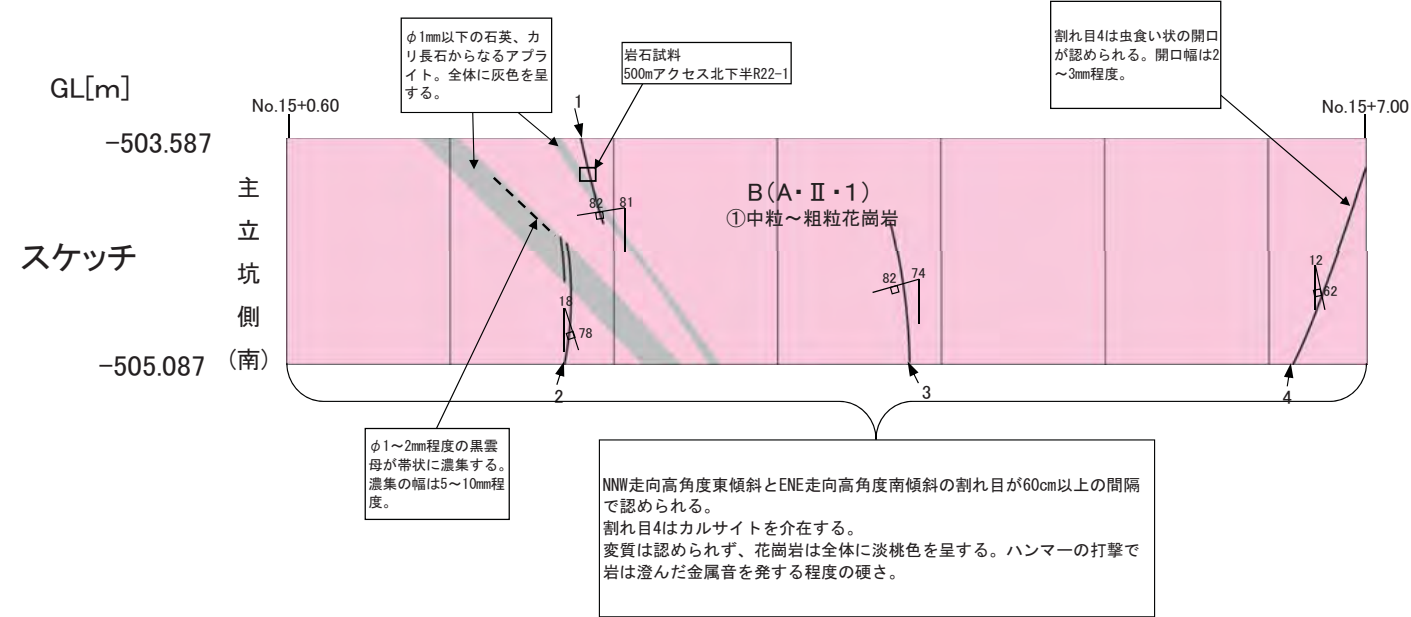
シート番号	500mアクセス北 下半22	日時	2013/9/30 15:00~16:30	位置・深度	500mアクセス北下半22 G. L. -503.587 m~G. L. -505.087 m	観察・撮影者	
-------	-------------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

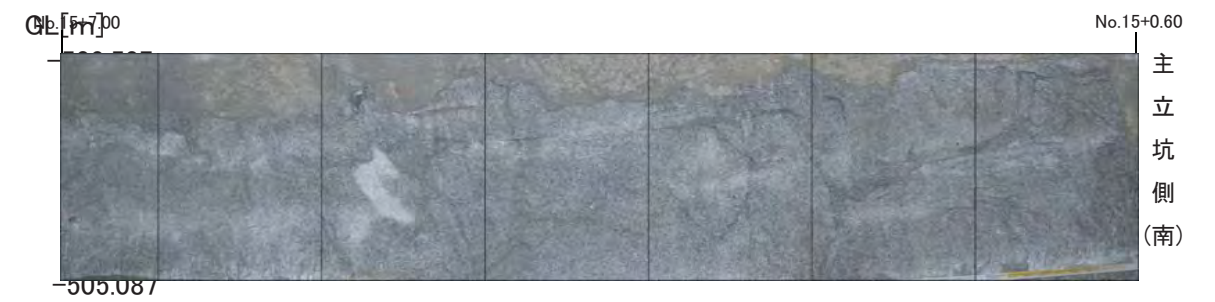
凡例

	花崗岩		割れ目		岩級区分境界		70		割れ目の走向傾斜		湧水		アブライト脈		黒雲母の濃集
--	-----	--	-----	--	--------	--	----	--	----------	--	----	--	--------	--	--------

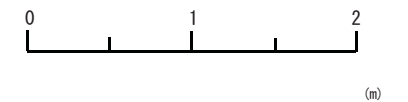
請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人



西側壁



東側壁



岩種	花崗岩	電研式岩級	西側壁 B 東側壁 B
岩相	①中粒～粗粒花崗岩 (淡桃色、灰色、淡褐色)	RMR値	西側壁 95 東側壁 95
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北下半R22-1(花崗岩), 500mアクセス北下半R22-2(花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	無し		

特記事項

当箇所は500mアクセス北坑道の下半であり、掘進方向はN9°W方向である。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2～8mm程度の中粒～粗粒花崗岩である。所々に最大φ20mmのカリ長石が認められる。また、西側壁、東側壁ともに、φ1mm以下の石英などからなる細粒のペグマタイトが認められる。西側壁、東側壁ともに花崗岩に変質は殆ど認められず、黒雲母などの有色鉱物は残存し、花崗岩は淡桃色を呈する。割れ目5の周辺においては程度の弱い変質が認められ、カリ長石が淡褐色に変色する。西側壁の割れ目の走向傾斜は、NNW走向高角度東傾斜とENE走向高角度南傾斜が認められる。東側壁の割れ目の走向傾斜は、NE走向高角度南傾斜、NNW走向高角度東傾斜、NW走向高角度北傾斜が認められる。

割れ目の介在物にはカルサイトが認められる。湧水は認められなかった。岩級区分は西側壁、東側壁ともに、割れ目間隔が60cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

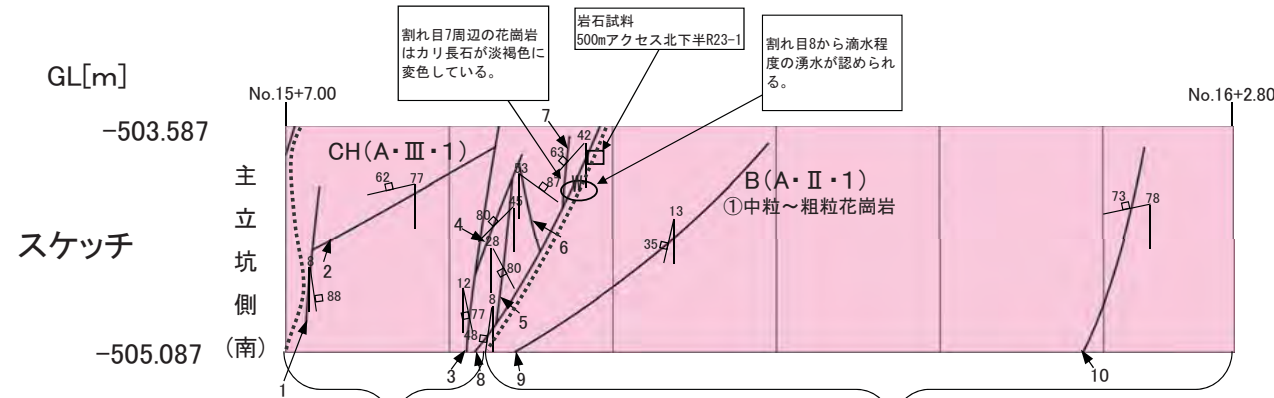
A5-請負-計測工(地質)-131001

シート番号	500mアクセス北 下半23	日時	2013/10/1 15:00~16:30	位置・深度	500mアクセス北下半23 G. L. -503.587 m~G. L. -505.087 m	観察・撮影者	
-------	-------------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

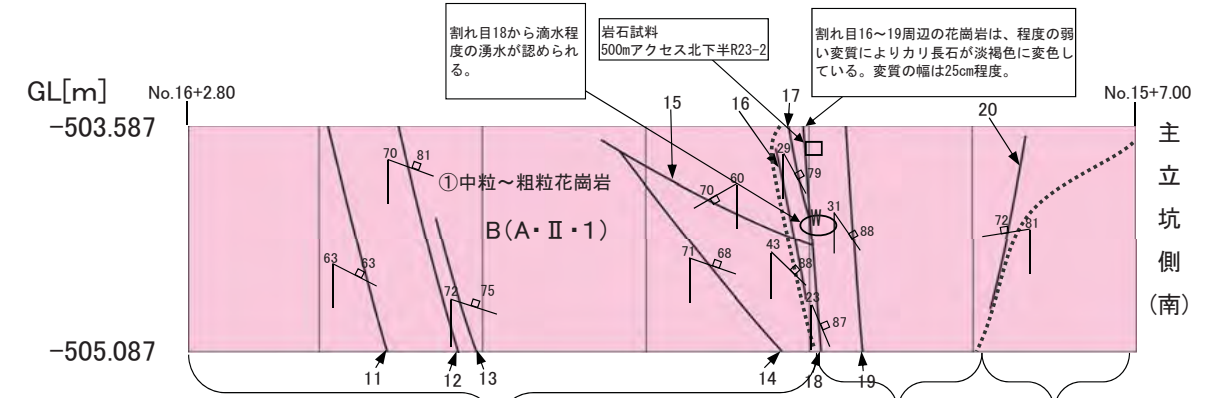
総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

凡例	花崗岩	割れ目	岩級区分境界	70	割れ目の走向傾斜	湧水
----	-----	-----	--------	----	----------	----

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人



スケッチ



主立坑側(南)

NE走向中~高角度南傾斜の割れ目が20~30cm程度の間隔で認められる。他に、ENE走向高角度北傾斜の割れ目1、NW走向高角度西~南傾斜の割れ目2, 4, 7、NE走向高角度西傾斜の割れ目6が認められる。
割れ目はカルサイトとクロライトを介在する。
変質は認められず、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で岩は澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

WNW走向中角度南傾斜とNNW走向高角度西傾斜の割れ目が認められる。
割れ目はカルサイトを介在する。
変質は認められず、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。ハンマーの打撃で岩は澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NNE走向高角度東傾斜の割れ目が60cm以上の間隔で認められる。
割れ目の介在物はカルサイトが認められる。
花崗岩に変質は認められず、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。
岩はハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

NE走向高角度南~東傾斜の割れ目が20cm程度の間隔で認められる。他に、NW走向高角度西傾斜の割れ目15やNNW走向高角度東傾斜の割れ目20が認められる。
割れ目の介在物はカルサイトとクロライトが認められる。
花崗岩に変質は認められず、花崗岩は全体に淡桃色を呈する。割れ目の周辺は程度の弱い変質によりカリ長石が淡褐色に変色している。
岩はハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さ。

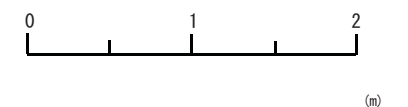


可視画像

西側壁



東側壁



岩種	花崗岩	電研式岩級	西側壁 B/CH 東側壁 B/CH
岩相	①中粒~粗粒花崗岩(淡桃色、淡褐色)	RMR値	西側壁 74 東側壁 74
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北下半R22-1(花崗岩)、500mアクセス北下半R22-2(花崗岩)
変質	1~2	採水試料番号	-
湧水	滴水程度		

特記事項

当箇所は500mアクセス北坑道の下半であり、掘進方向はN9°W方向である。
岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々に最大φ20mmのカリ長石が認められる。
西側壁、東側壁ともに花崗岩に変質は殆ど認められず、黒雲母などの有色鉱物は残存し、花崗岩は淡桃色を呈する。割れ目7の周辺や割れ目16~19の周辺においては、程度の弱い変質が認められ、カリ長石が淡褐色に変色する。
西側壁の割れ目の走向傾斜は、割れ目8から南側では、NE走向中~高角度南傾斜が主体で、他に、ENE走向高角度北傾斜、NW走向高角度西~南傾斜、NE走向高角度西傾斜が認められる。割れ目8から北側では、WNW走向中角度南傾斜とNNW走向高角度西傾斜が認められる。
東側壁の割れ目の走向傾斜は、割れ目16と20の間では、NE走向高角度南~東傾斜が主体で、他に、NW走向高角度西傾斜やNNW走向高角度東傾斜が認められる。割れ目16から北側では、NNE走向高角度東傾斜が主体である。

割れ目の介在物にはカルサイトとクロライトが認められる。
湧水は割れ目8と割れ目18から滴水程度で認められた。
岩級区分は、西側壁の割れ目8から北側と、東側壁の割れ目16から北側および割れ目20から南側では、割れ目間隔が60cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・Ⅱ・1)級と評価した。
西側壁の割れ目8から南側と、東側壁の割れ目16から20間での間は、割れ目間隔が20~30cm程度で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、CH(A・Ⅲ・1)級と評価した。

A工区地質記載シート

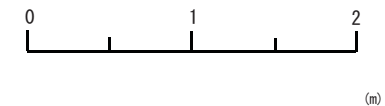
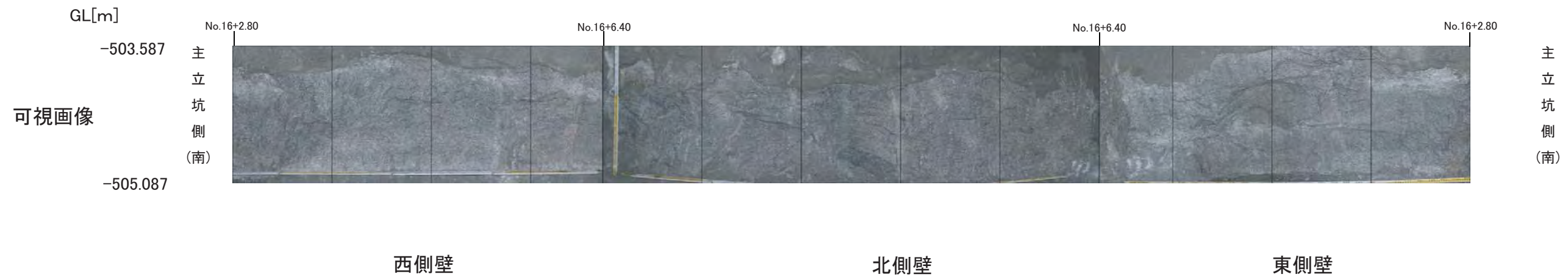
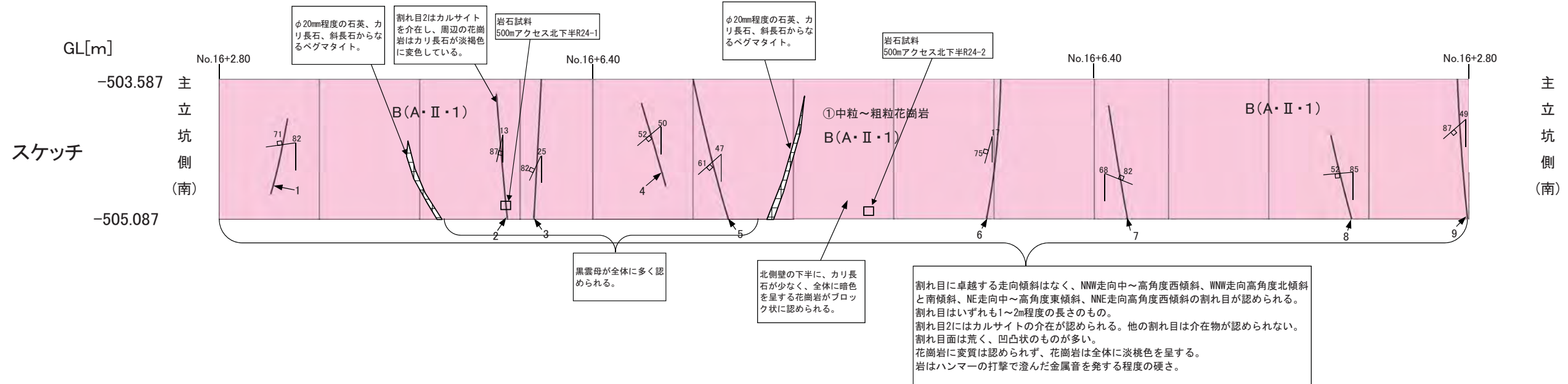
A5-請負-計測工(地質)-131003

シート番号	500mアクセス北 下半24	日時	2013/10/3 15:00~16:30	位置・深度	500mアクセス北下半24 G. L. -503.587 m~G. L. -505.087 m	観察・撮影者	
-------	-------------------	----	--------------------------	-------	--	--------	--

総括監督員	主任監督員	監督員	担当者

凡例	花崗岩	割れ目	岩級区分境界	70	割れ目の走向傾斜	ベグマタイト
----	-----	-----	--------	----	----------	--------

請負人 大林・大成・安藤ハザマ特定建設工事共同企業体
現場代理人



岩種	花崗岩	電研式岩級	西側壁 B 東側壁 B	特記事項 当箇所は500mアクセス北坑道の下半であり、掘進方向はN9°W方向である。岩種は花崗岩で、岩相は石英の粒径がφ2~8mm程度の中粒~粗粒花崗岩である。所々に最大φ20mmのカリ長石が認められる。西側壁、東側壁ともに花崗岩に変質は殆ど認められず、黒雲母などの有色鉱物は残存し、花崗岩は淡桃色を呈する。割れ目2の周辺には、程度の弱い変質が認められ、カリ長石が淡褐色に変色する。割れ目の走向傾斜には卓越した方向はなく、NNW走向中~高角度西傾斜、WNW走向高角度北傾斜と南傾斜、NE走向中~高角度東傾斜、NNE走向高角度西傾斜が認められる。割れ目はいずれも1~2m程度の長さのもの。	割れ目の介在物にはカルサイトが認められる。湧水は認められなかった。岩級区分は、割れ目間隔が60cm以上で、ハンマーの打撃で澄んだ金属音を発する程度の硬さであることから、B(A・II・1)級と評価した。
岩相	①中粒~粗粒花崗岩 (淡桃色、淡褐色)	RMR値	西側壁 95 東側壁 95		
風化	α	岩石試料番号	500mアクセス北下半R24-1 (花崗岩), 500mアクセス北下半R24-2 (花崗岩)		
変質	1~2	採水試料番号	-		
湧水	無し				